

2018/04/02



プレスリリース

ATOMOS Shogun Inferno と Sumo19 が Panasonic AU-EVA1 5.7K RAW 出力に対応しました

Panasonic 製の AU-EVA1 は、昨年の発売以降、低照度環境でも優れた性能を発揮する、Super35 センサーを搭載した素晴らしいシネマカメラです。

パナソニックの無料 RAW 出力アップグレードのリリースにより、ユーザーは Atomos Shogun Inferno HDR モニター / レコーダーと組み合わせることで、この驚くべきカメラと低ノイズセンサーの真の可能性を引き出すことができるようになります。これにより、カメラは別次元の性能を発揮し、最高のダイナミックレンジをもつ画像を素晴らしい品質で提供します。

間もなく、6G SDI 接続で最大 30fps のセンサーから直接 5.7K の素晴らしい RAW 画像をキャプチャし、信頼性の高い手頃な価格の SSD メディアに記録できるようになります。今月開催される NAB 2018 において Atomos が詳細を発表いたします。

4K 解像度では、プロダクション対応コーデックの Apple ProRes、Avid DNxHR、または CDNG RAW 形式で最大 60fps を 2Kp120 または 4Kp30 の RAW 出力から記録することができます。記録された映像は解像感がある美しい映像で、ヘビーグレーディングに耐えるクオリティです。

The Shogun Inferno は EVA1 のスロー・モーション性能にも最適です。最大 240fps の RAW 出力を 2k / HD で、Apple ProRes または Avid DNxHR に直接記録します。スポーツ、野生動物、その他幅広い用途に最適です。

これらの機能はすべて、Shogun Inferno と Sumo19 の AtomOS アップグレード版が 2018 年 4 月 NAB にリリースされる予定です。これは、ユーザーへの継続したサポートをお約束する ATOMOS から無料で提供される予定です。





『パナソニックと ATOMOS は、Shogun Inferno または Sumo 19 での組み合わせにより、10 ビット V-Log で 5.7K、4kDCI p24-60、2KDCI p240 のプロダクション向け RAW ワークフローの驚くほどの機能を完成させました。これは価格面からも最高の RAW ソリューションです。』と Atomos の CEO、Jeromy Young 氏は述べています。

もちろん、録画だけではワークフローの半分しか実現していません。正確なモニタリングを実現することが不可欠になります。幸いなことに、Shogun Inferno は 7 インチ 1500nit、Sumo19 は 19 インチ 1200nit という高輝度液晶を搭載しており、SDR から HDR までの録画およびモニタリングを実現しています。

10 倍以上のダイナミックレンジを示す独自の AtomHDR システムによって、HDR または Log での露出作業を推測でなく実際に確認しながら行うことができます。ディスプレイは色が正確で、X-rite i1Display Pro プロローブを使用することで、時間の経過とともに変化する液晶の色補正にも対応することができます。波形、ベクトルスコープ、偽色、オーディオレベルメーター、拡大表示など、AtomOS の様々な監視ツールも内蔵されています。

Shogun や Sumo にはカスタム LUT をロードすることもできます。HDMI または SDI を使用すると、4K PQ (HDR 10) または HLG HDR の映像を互換性のあるテレビまたはモニターに直接出力して、AtomHDR エンジンを使用して即座にプレビューすることができます。

EVA1 と Shogun Inferno や Sumo19 を組み合わせることにより、ハイエンドの外部モニタリングやレコーディングにおいて、最も汎用性の高い、柔軟でコスト効率の高いソリューションを実現することができます。

NAB ショーにご来場の際は、ブース C9425 で EVA1 と Atomos RAW の組み合わせによるソリューションをぜひ直接ご確認ください。